

意見集約シート

検討（議論） のテーマ	小項目テーマ	テーマに関する意見 (第1回での発言要旨)	テーマに関する意見 (第2回での発言要旨)
テーマ① 「文化」か「観光」か	「文化観光」の考え方	<p>地域に歴史がありそれを語れる語り部がいて、その（フィロソフィーとヒストリー）の上に成り立っていくのが観光である</p> <p>「人・まち・歴史」があって、その上に文化があり、さらにその上に観光が成り立っている。地域の方々のやる気と歴史を疎かにした観光は絶対に続かない</p> <p>文化か観光かではなく、一緒にやっていかなければこの町の将来は無い</p>	<p>地域の人は観光客に地域の文化や祭りの一番いいところを見せようとサービスをし過ぎて、疲れてしまう。一番良いところは地域の人が十分楽しみ、観光客には少しだけお裾分けをするという考え方であれば、持続的に楽しく続けられる。</p>

テーマ② (無形民俗文化財(行事)としての)維持・継承	だんじり行事に関するまつり町と郡部の関係性	昔は財力もあったので、だんじりは自分の町のものだと思っている人は多かったが、まつり町として今は、「だんじり・鬼は伊賀市のものと考えよ」と伝えている	<p>藤堂高虎によるニュータウンのようなまちの作り方がなされたのが伊賀上野であり、そこでは郡部でとれた米を全部上野の商人が集めて、木津川を使って運び、大坂などで売りさばき、経済を回すことでまちが形成されてきたという背景がある。また、上野天神祭という行事を通じて、町衆とお城（今で言う行政）がうまく連携し、人々の熱量を高め、まちのにぎわいを作ってきた。</p> <p>郡部の子供たちがだんじり行事を知ることだけでなく、それを見ることで、自分たちの地域で行われている祭りや行事に関心を持つことが大切である。上野天神祭のだんじり行事は、ユネスコ無形文化遺産であり、市を代表する祭り行事であるので、まずはそれを見ながら、自分たちの地域はどうかという問いかけを学校の授業で先生がすれば、自分たちの地域の祭りを調べるきっかけにもなりえる。</p>
--------------------------------	-----------------------	---------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

テーマ② (無形民俗文化財(行事)としての)維持・継承	無形文化の維持・継承(行事：3日間)	祭りを実際にやっている地域の人とそれ以外の地域の人との熱量に温度差がある。	<p>鍛冶町は人がおらず、子どもは外部から来た子ばかりだが、非常に雰囲気が良い。色々なところから人が集まって、皆でだんじりを盛り上げようとしている。鍛冶町は本当に手弁当でやっていたので、旧町の中でも独特の雰囲気のある町である。元々戸数が少ない所だったので、それだけ外部から人が集まり、頑張っているという意識が醸成された。そういう意味で、そういう人はだんじりのファンだと思う。そういう人が増えていけば、継承できると思う。</p>
			<p>人を集める方策が、それぞれの町で違う。歴史的に言えば、昔はだんじりには、その町の長男しか乗れなかった。そのうち、次男・三男も乗れるようになり、そして女の子も認められたように、だんだん広がってきているわけだから、当然、町の人だけでは運営できなくなっているということである。恐らく、そういう形で運営されている事実が知られていないと思うので、それも含めて広報しながら、各町が独自の方法で募集をしていけば良いと思う。</p>
			<p>だんじりの曳手を公募していた時に、貴重な幕をむやみやたら触ったり乱暴に扱ったりしたことがあったようである。まちの人々との信頼、信用のもとで多くの人に広めていくことが重要</p> <p>引手の70%は手伝いであり、県内大学の留学生、地元信用金庫、企業などは団体として毎年お馴染みになっている。(参加した人は転勤してもまた来てくれている)。今後も色々なルートから繋がりを拡げていきたいと思っている。</p>

意見の整理（共通認識）

あるべき姿に関する論点

あるべき姿・目指す方向性

他市事例

伊賀市の状況

文化観光は、地域の人・歴史・熱量の維持があった上で成立するものである

地域（まつり町）の人・歴史・熱量をどのように維持していくのか

元来、だんじり行事は、まつり町の人々をはじめとした祭りに直接参画する人々が、第一に恩恵を受けるものである。

（恩恵と課題の両面において）だんじり行事はまつり町の人々だけのものなのか

（伊賀上野のまちの成り立ちからしても）だんじり行事は、伊賀上野と郡部の地域的な関係性の上で成立しているものであり、だんじり行事を市全体で継承することは、まつり町の住民だけでなく、その他（郡部）の住民にとっても自らの生活に対する恩恵があり、一定の意義が存在しうる。

市全体におけるだんじり行事に対する認知、興味関心、参画機運をどのように醸成させるのか

だんじり行事全体のあるべき姿・目指す取組の方向性①

担い手（曳き手、お囃子）の確保は、それぞれのまちが工夫をし、形を変えながら取り組むべきものであるが、近年の一部のだんじりまちにおける取組などから、課題解決へのヒントは伺うことができる

まつり町の人たちとの一定の信頼関係の下、だんじり行事の魅力に共感し、継続的な関わりを持っている人たち（＝ファンやサポーター）を増やす

必要に応じ調査

関係各課への聞き取り

- 【文化振興課】
- ・上野天神祭のだんじり行事保存継承事業交付金を交付
- ・庁内だんじり曳き手・警備ボランティア取りまとめ

検討（議論） のテーマ	小項目テーマ	テーマに関する意見 (第1回での発言要旨)	テーマに関する意見 (第2回での発言要旨)
<p>テーマ② (無形民俗文化財(行事)としての)維持・継承</p>	<p>無形文化の維持・継承 (行事以外:362日間)</p>	<p>長浜市の曳山博物館の中はだんじりの修理場や子供歌舞伎の練習場になっている</p>	<p>一つ町のお囃子についても、100年前と同じように演奏しているから、録音はしていないし、楽譜もない。言葉だけで打楽器はコンチキチンとかテンツクテンと言ったり、笛はオーヒヤヒヤと言っているだけで、指の動きはみな見まねでやっている。そういったものの継承もやっていきたい。今はデジタルで色々できるので、録音もやっていきたい。</p>
		<p>コロナ禍や事故により昔(本来の)祭りの姿を取り戻せていない地域もある中で、半年に1回のだんじり会館への入れ替え作業は、祭り町の人々の祭りへのモチベーションの維持の観点で寄与している</p>	<p>お囃子のコンサートや劇などがあれば、行ってみたい。だんじりが並んでいる場所で、演劇やコンサートが行われれば、壮観な感じがして良い。青山地域の中には知らない人が多いので、伊賀全体の市民として共通認識を持ち、何か心が動くことになっていけば良い。自分自身がこの委員会に参加することで興味が湧いたように、興味を持ってもらうにはどうすればよいかという観点で考えていくべき。</p>
		<p>市の施設だと特定の一部のエリアの住民だけの施設という認識でなく、市域全体としてのメリットや役割がある施設になっていくべきという考え方が必要</p>	<p>9町のだんじり町が個々の町のコンサートもやれたら良い。それぞれの町のお囃子がどんな演奏かを、違う町の人には全然知らない。何よりも皆が集まって各町のお囃子を聴く場所を作ってもらいたい。</p>
		<p>郡部の人にとっては遠い存在・会館に訪れたのは1回あるかどうか。昔の記憶だが会館は暗くて怖いイメージ。</p>	<p>2026年がユネスコ無形文化遺産登録10周年に向けて、だんじりの文化的な面を、例えばお囃子、祭りや町の生活にももう少し重点を置いていきたいと思っている。特にお囃子、子どもという観点での会館の位置づけとして、そこで練習ができるんじゃないかとも思っている。コロナ中は町の集議所を借りて練習していたが、だんじり会館を借りられる方が良い。</p>
			<p>京都から祇園祭で白楽天山という山を持っている町の人10人くらいが来て、もちろん入場料は払って入館してもらっているが、彼らの視察目的はだんじり会館の展示物の見学に来たのではなく、お囃子の練習を見たかった様子だった。現在は白楽天山のお囃子は途絶えてしまっているので、上野天神祭や滋賀県の大津祭が京都祇園祭の流れを汲んでいることを聞いて、来訪したようであった。</p>
	<p>今年は祭り3日間のうち金・土曜日は雨だったが、だんじり会館から搬出するところを毎年見に来ている人がいた。近くの桃青の丘幼稚園の園児は、会館ができてからずっと、雨が降っても見に来て、応援してくれている。会館の位置づけがコロナをきっかけに変わった気がしている。コロナで祭りが3年間中止になったが、だんじり会館からの搬出搬入だけは、ずっと続けてやってきた。斜に構えている人や鬼町の人も、入替作業に沢山の人が集まってくれた。</p>		

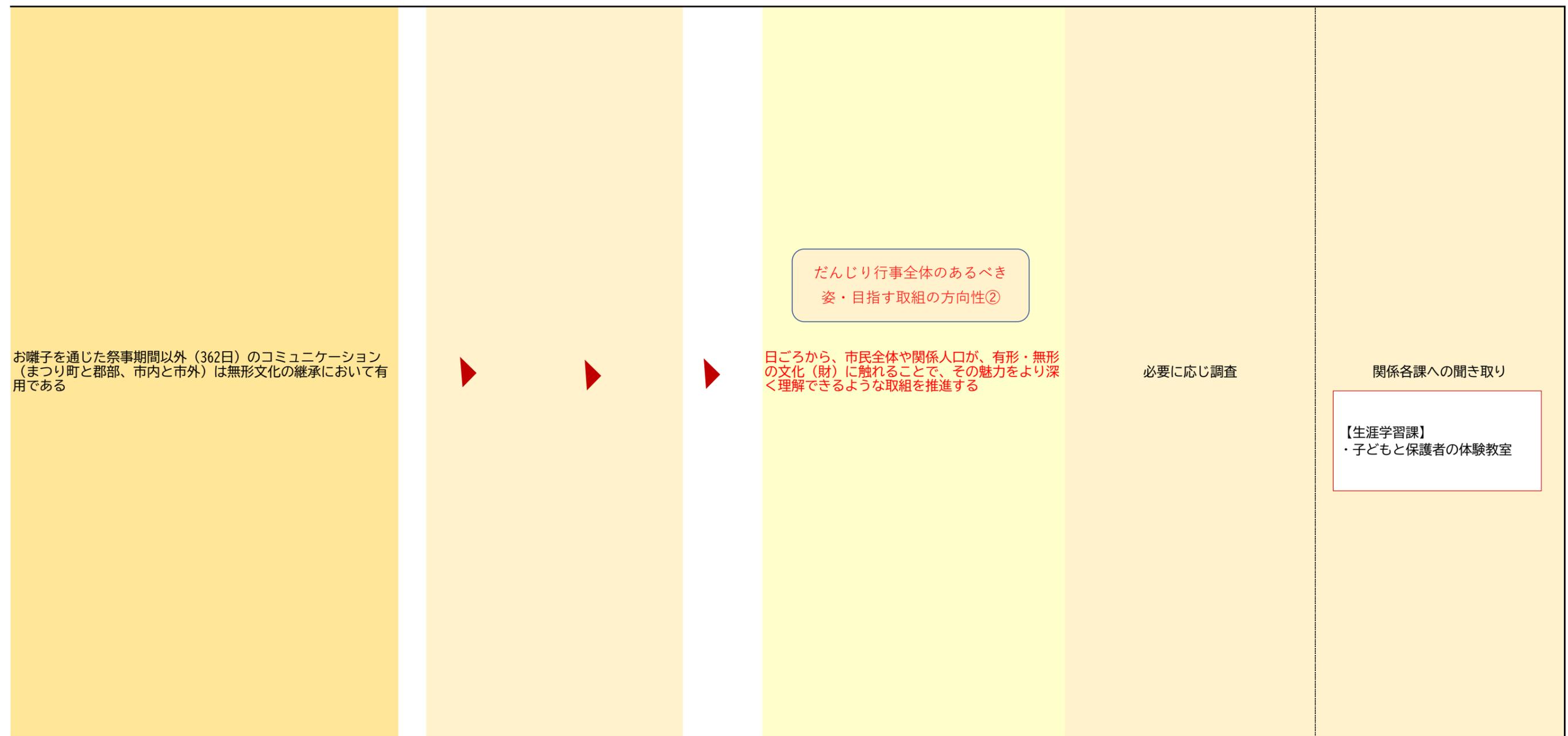
意見の整理（共通認識）

あるべき姿に関する論点

あるべき姿・目指す方向性

他市事例

伊賀市の状況





<p>（保全・保護の観点からは）有形文化財の実物展示は課題も多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本物（実物）の展示は必要か</li> <li>●有形文化財の「保全・保護」と「活用」はトレードオフなのか</li> </ul>
--------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>工夫次第で保存と活用（実物展示）は両立することも可能であり、凍結保存（今の形を絶対に棄損しないという考え方に基づく保存）ではなく、活用を前提とした保存を目指すべきである。ただし、「現物を半年間吊るした状態の展示」は必ずしも最善ではない</p> <p>幕などの文化財の展示を通じた祭事期間以外（362日）のコミュニケーション（まつり町と郡部、市内と市外）は、文化の継承・発信において有用であるが、その展示手法は、歴史的背景やディテール（裏側など）を含め、その魅力を総合的に伝え、理解してもらうなどの工夫が必要である。</p>	<p>来訪者にとって魅力ある展示や企画は、誰によって行われるべきか（誰が担えるのか）</p>	<p>だんじり行事全体のあるべき姿・目指す取組の方向性②（再掲）</p> <p>日ごろから、市民全体や関係人口が、有形・無形の文化（財）に触れることで、その魅力をより深く理解できるような取組を推進する</p>	<p>必要に応じ調査</p> <p>企画展示や催しを積極的に行っているような全国施設における施設管理・運営者の属性は？</p>	<p>関係各課への聞き取り</p> <p>【文化財課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だんじり本体や幕などの修理事業への国庫補助金と合わせた市補助金交付</li> <li>・市単費による中小の修理</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>修理センター（ドック）は必要か？</p>			<p>だんじり本体の修理に関する方針は？</p>
--	-------------------------	--	--	--------------------------

<p>（有形無形に限らず）文化財の維持継承には財源が必要であり、公民および地元負担の割合や財源確保の方策については、地域全体で一定の合意が必要</p>	<p>目指すべき姿の実現に向け、費用対効果に優れた方策は？</p>		<p>他自治体のだんじり関連施設の維持管理にかかるコスト感は？</p>	
-----------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------	--	-------------------------------------	--



意見の整理（共通認識）

あるべき姿に関する論点

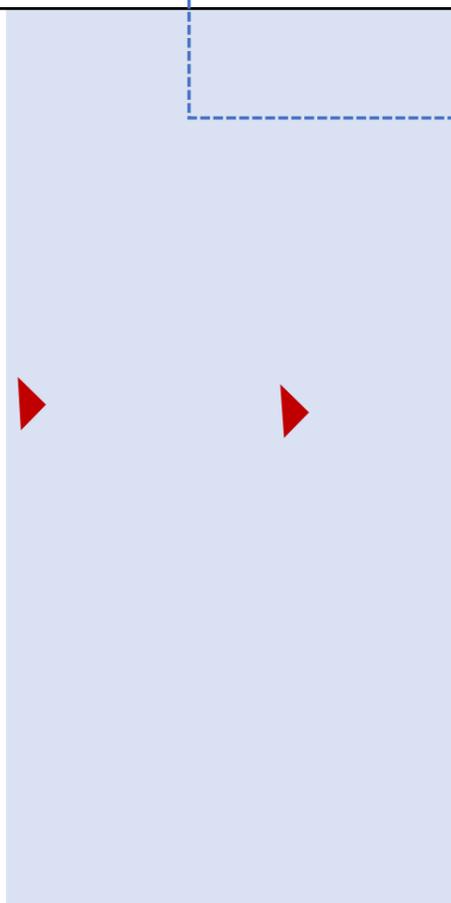
あるべき姿・目指す方向性

他市事例

伊賀市の状況

- 「次世代の子供たちに地域を知り愛着をもってもらうこと」は、まちづくりや文化振興全体の共通テーマである
- 伝統文化の継承は、継続的なコスト（お金、人員（伝える側の人材））が必要である  
他の文化資源なども可能な限り一体的に捉え、取り組むことが、合理的である
- 現在進んでいる美術博物館、図書館、芭蕉翁記念館の整備計画と有機的に連携させ、だんじり会館の今後のあり方を検討する必要がある

展示や取組は、だんじりそのものではなく、町の人の日常生活との繋がりをテーマにすべきである



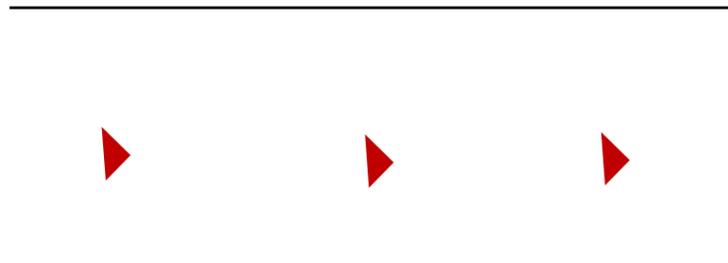
市全体の文化振興の観点（次世代への継承、魅力ある展示（学芸員の確保）、運営コスト、発信力など）からすると、今後の文化関連施設の整備検討は、可能な限り一体的かつ有機的に行う

だんじり会館のあるべき姿  
方向性①

文化振興・文化観光のランドマーク、ゲートウェイとなっているモデル施設は？

美術博物館、図書館、芭蕉記念館の整備計画における、「だんじり会館条例の理念」や「だんじり全体のあるべき姿・目指す取組の方向性」に関する検討状況は？

【美術博物館建設準備室】  
・美術博物館建設にかかる検討の進捗



施設の収益性と文化振興の両立はどのように図っていくべきか

周辺環境の変化や将来像を見据える中で、地域と市外の来訪者の双方にとって良い機能を備えた施設とは？

周辺環境の変化や将来像を見据えつつ、地域・市外来訪者の両方にとってどのような機能を備えた施設が良いのかを長期的な視点で総合的に考えていくことが大切

一定の収益性も期待しつつ、来訪者に対し伊賀上野の趣深く多様な歴史・伝統・文化へと誘うゲートウェイ的な機能

現在のだんじり会館の場所・建物におけるあるべき姿とは、「特定の具体的な機能」なのか「周辺環境などによる変化を前提とするのか」

※あの場所にふさわしい普遍的な特定の機能が存在するのか、周辺の施設や社会状況により望ましい機能が浮かび上がるのか

だんじり会館のあるべき姿  
方向性②